

# 特集 もっと知ろう！留学生！！

前号では、外国から日本へ留学している方々に日本での留生活についてのお話を伺いました。今号では立場を替えて、日本から外国に留学した経験をお持ちの方にお話を伺ってみました。去る、10月14日 日 川崎市国際交流センターで、お二人の方に興味深い留学体験を伺いましたのでご紹介します。

司会：まず、自己紹介をお願いします。  
 榑原：<sup>オカサキノクマミ</sup>榑原圭美と申します。私は神戸の出身ですが、結婚して昨年（2006年）末に川崎へ引越ししてきました。

船津：<sup>フナツナツ</sup>船津直と申します。私は川崎出身で、昨年（2006年）末にカナダから日本に戻ってきたばかりです。

司会：留学の動機は何ですか？  
 榑原：私が大学生の時、阪神大震災が起きました。死は突然に訪れることもあると実感し、やりたい事があつたら、今やらなければと思いました。それからアメリカの大学に入学し、7年間過ごしました。その間、1年間はタイ山岳民族の教育関係の開発支援の為、現地で生活しました。なかなか貴重な体験でした。  
 船津：もともと留学に興味があり、大学時代にアメリカへ短期留学しました。戻ってきて就職活動もしましたが、何かしっくりきませんでした。それから、カナダワーキングホリデーを利用して行き、4年位過ごしました。カナダでは語学学校のスタッフとして働いていました。  
 司会：実際に留学先に行かれてみて、いかがでしたか？

榑原：当初は多少のホームシックもありましたが、留学先がアメリカの田舎町ということもあり、人々がとても親切でしたので比較的早く馴染むことができました。けれども大学の実習で1年間タイの山岳地帯に行つて生活した時は、体を壊すほど大変でした。親元で暮らせない子ども

達の施設で寮母兼教育係として働きました。私の一番の仕事は英語を使っての大使館との交渉役でしたが、毎日が驚きの連続でした。シャワーもなくホースで水浴びをし、一番のご馳走はバナナとパイアでした。必要なものとしてコンピュータはあるものの、50の気温の中でいつ壊れるのかハラハラしていました。

以前から植民地になったことがない王国というところに興味を持っていましたので、タイを実習国に選びました。  
 船津：カナダという国に先入観を持たずに行きましたので、特に驚いたことや困ったことはありませんでした。逆に自分の生活スタイルはカナダのほうが合っていると思いました。

嬉しかったことは、カナダ人には親日の方が多くて「日本に行ったことがある」「これから日本に行こうと思っている」「日本は素晴らしい国だ」等々言われたことです。日本のことを聞かれても答えられなくて恥ずかしい思いもしました。他の国の人達は皆、自分の国をよく知っていて自慢しています。国民性の違いもあると思いますが...

司会：留学したことをどのように生かしていらっしゃいますか？

船津：今度は、自分が留学生を送り出す側で仕事をしたいという目的で帰国しました。自分の経験してきたことを含めて、生の情報を伝えたいと思います。比較的留学が簡単に出来て、数も増えている反面、目標を持たずに留学する人達も少なくありません。飛び出す前にアドバイスを

## わたしの 海外留学

できればと思います。いつもカウンセリングでは「目標は何か？」ということをはっきり持つことが大事だと伝えます。「ただ何となく行きたい」では時間とお金の無駄になってしまいますので。

反対に少しためらっている人には楽しく素晴らしい経験ができるので「行ってみたい」と背中を押すこともあります。カウンセリングに来られる年代は10~70代まで幅広くいらっしゃいます。一番多い年代は20歳前後、20代後半の方です。

榑原：私もアメリカでの生活が自分にとっても合っていたので、帰国するのが辛かったです。私にとってのアメリカ・バーモントは20歳から仕事をしながら大学に通い、自分自身が独立していった大事な場所です。そのことが今でも自分の自信になっています。

帰国直後は英会話学校に勤務していましたが、アメリカでの仕事のやり方とのギャップがあり、かなり戸惑いました。はっきりと意見を主張することにより、気まずい思いもしました。まだ川崎に住むようになって日が浅いのですが、これまで勉強してきた「多文化教育」と「バイリンガル教育」に携わっていきたいと思います。

司会：これから留学をしたい人へのアドバイス、その他、気がついたことがあればお話しください。  
 船津：「行ってみたい」と思ったら、取り敢えず行った方が良いでしょう。

計画して行動に移せば先が見えて来る為、目的が何であれ、行ってみることだと思います。留学生へのアドバイザーをしているので、費用や不安などあれば、相談にきてほしいです。

榑原：身の回り品等、生活用品はどこでも同じでコンビニもあり、ほとんど持っていく必要はないと思います。

船津：私の場合、手桶を持って行って入浴時にはとても重宝しました。日本でしか手にはいらぬものや、気に入ったもの等は持っていくと便利かもしれません。（折り紙や日本についての本

など）  
 榑原：留学先での人間関係などコミュニティを築く為に、日本人の中だけや学校内に留まらず、いろいろな場所へ出向くこと。また、そんな際も日本人としての文化や教養、自分の好きな専門分野を身に付けておくと、会話にも取り入れられ、強みになると思います。そうすることによりいろいろな友人も出来、将来的に良い結果を生むことになると思います。

船津：語学の勉強は、学校の授業だけではなく日常生活の中から学ぶものであると思います。つい、学校選びに走りがちですが、あまりとらわれない方が良いでしょう。

また、最近ではいろいろな情報でホームステイに抵抗を示す人が多いようですが、実際はホームステイの方が日常会話の学習もでき、役に立つので、相談者にも勧めています。

それから、留学先での疑問や不満など気がついたことは、その場で話した方が改善されます。外国の方たちは、即その場で口に出してしまうのに、日本人は気質的にもその場ではなく後から言うため、改善策が取りにくいです。

榑原：日本にいる自分と海外での自分にギャップを感じる人が多いです。日本での職場選びも環境が全然違い、言葉遣いから大変でした。また、日本との生活習慣の違いもあり、時間の使い方や休日の過ごし方などが仕事優先であったり、服装なども左右されたり、仕事内容にも曖昧さが目につくことが多いです。

それに戻ってきて、海外での学位が日本で認められないことが多くショックを受けました。いろいろな資格を取るためには、日本の学位が必要なものもあり、なかなか難しい状況にあることが多いのも事実です。そのようなことは事前に調べておいた方がいいと思います。

司会：今日のご苦労や楽しいお話をいろいろと伺えてとても有意義でした。有難うございました。

お二人とも、目的を持って留学し、外国で20代初めの多感な時期を過ごされて、それを仕事や生活に生かされていると感じました。また、川崎市国際交流協会のボランティアにも登録されているそうです。今後は日本においても活躍されることを期待しております。

## 世界の食卓から キルギス料理



### Raduga(ラドゥーガ) サラダ

材料（4人分）

にんじん(大)	2本	植物油	500g
トマト	4個	マヨネーズ	100g
キュウリ	4本	ラム	
じゃがいも	3個	デリー	1束
キャベツ(小)	1個	イタリアンパセリ	1束
ピーズ	2個		
あさつき	1束		

作り方

1. にんじんとピーズを目の荒いおろし金でおろす。
2. 棒状に切ったじゃがいもを油で揚げます。
3. キャベツを細かく刻む。
4. トマトとキュウリを細かく切る。
5. 大皿の上に材料を、お互い混じりあわないように、そして皿の中央部に空間ができるようにして、順番に並べていくと虹の七色を並べたような円ができあがる。

空間の部分に細かく刻んだ緑色野菜（あさつき、デリー、イタリアンパセリ）を適量置き、上からマヨネーズをかけ、その上にもう一段緑色野菜を重ねる。この状態でテーブルに置き、食べる直前に全てを混ぜ合わせて出来上がり。

## 民間交流団体紹介

川崎市国際交流協会では市民レベルでの国際交流・国際協力を目的としたグループ、団体のために登録制度があります。2007年12月現在の登録団体数は78団体です。今回はその中のひとつ、「日本ベトナム友好協会川崎支部」にグループとその活動内容を紹介していただきます。

### 日本ベトナム友好協会川崎支部

私たちは2003年11月から自転車、ベトナム・ダナン市と隣のクアンナム省の10km以上を歩いて通学する子ども達にプレゼントしています。今年は5月と11月で630台、4年間11回で合計2,310台を贈りました。ご協力くださった市民の皆さんにこの場をお借りして御礼を申し上げます。2000年にベトナム訪問の折、ベトナム戦争時に撒かれた枯葉剤の被害が2世・3世にもおよんでいることを知り、まだあの戦争は終わっていないと思いました。帰国後、私たちにできる支援を皆で考えたのが自転車プレゼント活動のきっかけです。川崎市に放置自転車の提供をお願いしてから3年かけてプレゼントを開始しました。

年に2回の自転車プレゼントには毎回約60名の市民の皆さんが、自転車修理ボランティアとして参加してくださっています。11月の自転車修理日の反省会では、若い参加者から「知りのミュージシャンのチャリティーコンサート」の提案があり、また他の方からは「勤務先企業の環境団体への社会貢献活動」などの体験を伺いました。「自

分のささやかな活動が人の役に立っていると思うと嬉しい。」「エコロジーと国際交流を一体としたこの活動は素晴らしい。」など多くの参加者が楽しんで参加してくださっています。作業は簡単な自転車修理です。ボランティアを始めてみたい方、自転車の好きな方のご参加をお待ちしております。ところで、私たちの悩みはいつも自転車のベトナムまでの輸送費です。コンテナ1台の輸送費は約25万円かかります。2005年には川崎市国際交流協会から、2006年には川崎市市民活動センターから輸送費の助成をいただきました。その他イベントでベトナムの小物を販売したりして輸送資金を得ていますが、今後も活動を続けるためには更に資金集めが重要です。行政や企業からの資金援助も期待しています。私たちはこの活動が「資源保護、物を大事に使う心、また互いにいたわりあう心を育てる、私たちの住むふるさと川崎のイメージアップにつながる」と考えて取り組んでいます。ベトナムでは今でも自転車は宝物として大事に扱われています。今後みなさんと協力して自転車プレゼントを続けたいと考えています。

